科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	言語科学Ⅰ Introduction to Linguistic Science I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　齋藤　治之		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	火5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、言語学の考究による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。言語学のさまざまなアプローチにより、ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。以上のような立場から、言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。

[到達目標]

言語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の全体像が把握できるよう考究を進める。世界の諸言語を視野に収め、ことばの普遍性・体系性が明らかになることを目標とする。ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を学ぶ。

[授業計画と内容]

近代言語学の基本的な概念や専門用語はスイスの言語学者フェルディナン・ドゥ・ソシュールに遡る。本講義ではソシュールが提唱した様々な考え方を毎回１つ取り上げフランス語の原文とその日本語訳を通じて概説することを試みる。講義の内容は下記のとおりである。

１．言語学とは
２．言語記号の恣意性
３．通時態と共時態
４．パラダイム関係とシンタグム関係
５．言語の体系と構造
６．統語論
７．意味論
８．語用論
９．まとめ（総論）

各項目について２回前後の授業で取り組む予定である。

[履修要件]

特になし

言語科学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

言語科学Ⅰ(2)

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、基本的に、平常点（出席状況および授業への取り組み）・学期末レポートに基づく。
成績評価基準の詳細については、授業中に指示する。

[教科書]

授業中に指示する
フランス語の原文を使用するが日本語訳も併用するのでフランス語を履修していない学生も全く心配する必要はない。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
教材はこちらで用意する予定である。

[授業外学修（予習・復習）等]

言語学に関する多くの文献に目を通すことが大切である。

[その他（オフィスアワー等）]

参加者数は教室定員を上限とする。

[主要授業科目（学部・学科名）]